



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2010.7

No. 315

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



北マリアナ諸島 ロタ島・サイパン島の鳥たち

海老原美夫（さいたま市）

今年4月、ミクロネシア北マリアナ諸島のロタ島とサイパン島に数日間滞在し、野鳥を観察してきた。写真を見せ、話をしていたら、例によって山部編集長から、「それを原稿にぜひ」と言われてしまった。書いてもいいけど、どういう姿勢で書けばいいのだろう。あの悲劇の島を、どこかの旅行雑誌のように「南の楽園」などとはとても書けない。

ロタ島・サイパン島とは

成田空港から3時間半ほどの太平洋に位置するアメリカ合衆国の自治領であり、近くにグアム島、ティニアン島などがある。古来から先住していたのは、チャモロと呼ばれる人たちである。17世紀にスペインがチャモロの人々を虐殺して征服した。19世紀末にドイツに売却され、20世紀に第一次世界大戦が始まると、日本が、ロタ島・サイパン島を含む赤道以北の南洋諸島を占領した。第二次世界大戦では米軍との間に激しい戦闘が行われ、凄まじい数の犠牲者が出たことは、ある程度の年齢の日本人であれば、知らない人はいないだろう。

鳥たちの概要

種類数は多くない。今回の旅で観察できたのは移入種も入れて、**ネッタイチョウ科**アカオネッタイチョウ、シラオネッタイチョウ、**カツオドリ科**カツオドリ、**アカアシカツオドリ**、**グンカンドリ科**オオグンカンドリ、**サギ科**ヨシゴイ、クロサギ、**チドリ科**ムナグロ、**シギ科**チュウシヤクシギ、**カモメ科**シロアジサシ、クロアジサシ、**ハト科**ムナジロバト、オオベニバト、コバシヒメアオバト、**カワセミ科**ナンヨウショウビン、**ヒタキ科**オウギヒタキ、**メジロ科**マリアナメジロ、**ミツスイ科**ミクロネシアミツスイ、オウゴンミツスイ、**カエデチョウ科**ホウコウチョウ、**ハタオリドリ科**スズメ、**ムクドリ科**カラスモドキ、**オウチュウ科**オウチュウ、**カラス科**グバリーガラス、17科24種にすぎない。

コバシヒメアオバト

スターはこの鳥だろう。華やかな色彩を言

葉で説明するのは難しいので、編集長に無理を言って、今月号の表紙にカラー写真を掲載した。この地域は自治領であって「国」ではないから「国鳥」とは言えないが、それに匹敵する代表的な鳥で、サイパン・ティニアン・ロタ・グアム島などに生息する。国際自然保護連合レッドリスト(2004年)絶滅危惧I B 類種。

なかなかその姿を目にすることができないことが、かえって魅力のひとつになっている。多くはないが、そこそこいる。それでも見つけにくいのは、なぜか。

ひとつはこの鳥が果物のみを食べるので、その肉が大変おいしいから、とのこと。近年まで人に捕食され続け、警戒心が大変強くなっている。

全長24cm、ムクドリほどの大きさしかないことも、見つけにくい原因のひとつになっている。ハトだという頭があるので、我々はついキジバト(33cm)大の鳥を探してしまう。ところが、少し大きな葉のかげに隠れてしまうと、「声はすれども姿は見えず」状態になってしまい、いくら探しても見る事ができない。

私とその全身をゆっくり見ることができたのは、旅の最終日、そろそろホテルに戻って、空港に向うための着替えやパッキングをしなければならぬかなというぎりぎりの時間になったこと。その時に撮影できたのが、表紙の写真である。

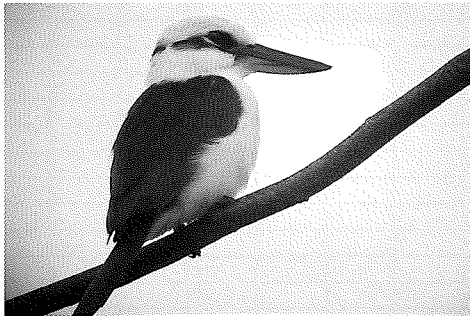
対面して、その目付きがかなり強いことに気がついた。豆鉄砲をくらってきよんとしているような目では、決してない。この目で、それぞれの時代のコバシヒメアオバトたちは、様々な過酷な歴史を、葉陰から見つめ続けてきたのだろうか。

ナンヨウショウビン

数も多く、楽に見ることができる。ロタ島、サイパン島とも、ホテルの庭にもいる。ペランダの手すりにとまったりする。



ロタ島のナンヨウショウビン



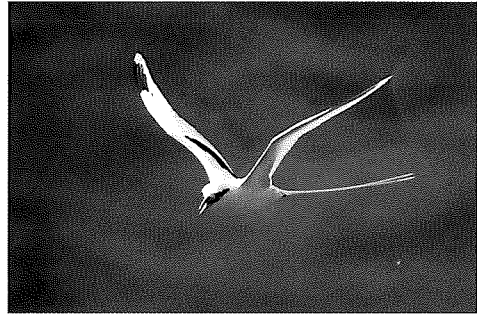
サイパン島のナンヨウショウビン

ところがロタ島で見ると頭に青黒い模様があり、サイパン島では頭が白い。亜種が違っていると案内人から説明された。ふたつの島の距離は空路たった約30分、100kmほどだ。それでこんな違いがある。かつて訪れたガラパゴス諸島でもそうだったが、「島」という環境が生物に及ぼす影響を、グラス片手に考えた。

サグアガガ水鳥保護区

ロタ島にある。通常ただ「バードサンクチュアリ」と呼んでいる。崖の上から見下ろした木々に、アカアシカツオドリ、カツオドリなどが多数営巣している。アカオネツタイチョウ、シラオネツタイチョウ、シロアジサシ、クロアジサシ、オオグンカンドリが飛び交っている。

アカオネツタイチョウが飛ぶと、赤い尾がほとんど見えなくなってしまう。白い尾がはっきり見えるシラオネツタイチョウの方が、人気が高いようだ。



シラオネツタイチョウ

シロアジサシはサンクチュアリでも観察できるが、ロタ島のホテルの庭で親子が並んでいた。



シロアジサシ

旅としては

鮮やかに赤いミクロネシアミツスイ、害虫駆除のために移入されたオウチュウの小鳥類に対する害など、鳥に関する話題はまだまだあるが、話を「旅」としての感想にうつすと、日本から3時間半で行ける、食事に問題はない、通貨は米ドルだから扱いやすい、鳥種数が多すぎないことにかえって集中できるなど、様々な点で、海外鳥見旅行としてかなり楽な部類に入る。「楽に旅ができる」のなら「楽園」ではないかと言われそうだが、ちょっと意味が違うのでは。

悲劇の歴史に目を向けると、限りなく暗くなってしまう。だが、私たちが訪れることが、今そこに住む人たちにほんの僅かでも経済的利益をもたらし、今そこに生息する鳥たちの保護にほんの少しでも役立つのであれば、それが脳天気にも鳥を見に行く言い訳にならないだろうか。そう考えて、腰が定まらないままに本稿を書き始めたけれど、ようやくささやかな足がかりを見つけたような気がする。

2010年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：2010年4月29日9:30～11:30

場所：さいたま市 大久保農耕地

天候：晴れ

関東地方はだいたい晴れましたが、前線が通過した11時前後は曇ってきて雨がぱらつきました。連休にもかかわらず、23名のご協力が得られました。ありがとうございました。

観察された種数、個体数は3種11羽で、昨年の春と比較すると種数で2種、個体数で352羽少なくなりました。昨年に比べるとムナグロが332羽も少なくなったことが大きな原因です。

田んぼに水が入っていたにもかかわらず、春の調査で11羽というのは、今までの最低記録です。はっきりしたことは分かりませんが、4月の天候不順が渡りにも影響したのかもしれません。

2つの表は地区(A・B・As・A')ごとのムナグロとその他のシギ・チドリ類

シギ・チドリ類の個体数と、今までの春の調査結果(全地区合計)をまとめたものです。なお、地区ごとの表は4地区を定期的に調査するようになった、1993年以降の結果をまとめました。(石井 智)

地区ごとのムナグロとその他のシギ・チドリ類

	A		B		As		A'	
	ムナグロ	その他	ムナグロ	その他	ムナグロ	その他	ムナグロ	その他
1993年	82	25	35	32	6	1	258	3
1994年	61	14	101	26	29	2	88	0
1995年	44	18	60	51	21	0	2	3
1996年	244	16	53	9	70	3	167	2
1997年	24	1	37	11	75	1	42	0
1998年	114	4	0	4	25	6	4	1
1999年	16	2	15	5	0	1	99	15
2000年	0	9	12	11	103	3	0	1
2001年	119	5	2	5	183	1	0	0
2002年	32	3	0	9	121	0	0	0
2003年	45	1	0	10	145	2	0	3
2004年	87	1	8	10	313	8	1	0
2005年	0	0	0	17	3	0	0	3
2006年	5	9	24	1	415	6	0	0
2007年	0	0	0	9	281	8	2	4
2008年	1	0	0	14	97	2	0	0
2009年	0	4	0	3	320	1	17	14
2010年	0	3	0	3	5	0	0	0

春のカウント結果(大久保農耕地全地区合計)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
調査日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/28	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	
天候	晴れ	雨	晴れ	曇り	雨	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	晴れ	曇り	晴れ	晴れ	快晴	快晴	曇り	快晴	晴れ	快晴	晴れ	
1 タマシギ				2																					
2 コチドリ		5	1	2	1	1	4			7	1		1	2	5	2	6	9	4	4	2	6	3	7	4
3 シロチドリ				1																					
4 ムナグロ	400	444	488	624	474	386	381	277	127	534	178	143	130	115	304	153	190	413	3	444	283	98	337	5	
5 ケリ																1									
6 キョウジョシギ	3	7	2	2				2	1			2	4		2	1		1		3					
7 トウネン				1																					
8 ウズランギ	2		2		1	1																			
9 ハマシギ	2		10	30			24	1		9															
10 アオアシシギ			4		2	1	7	3					7								2	1			
11 タカアシシギ	50	52	69	16	4	6	6	13	25	5			1	5	2	1	1	6						4	
12 キアシシギ	2			3								2	1					2		1		3			
13 イソシギ	2		1									1					1								
14 オグロシギ				1																					
15 チュウシャクシギ	12	6	7	8	3	1	13	12	11	3	10	2	5	11	4	2	3	6	3	5	6	2	13		
16 コシャクシギ				1																					
17 タシギ	14	30	39	11	43	36	21	10	26	12	3	6	3	3		1	2		13	3	8	8	2	1	
18 オオジシギ															1	1									
シギ属不明種	1	1				3	2	1	2			1													1
19 アカヒレアシシギ		1																							
シギ科不明種						5																			
合計	493	542	624	701	528	443	454	319	199	564	191	158	153	139	315	166	206	432	23	480	304	114	363	11	



野鳥情報

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇3月17日、

アカゲラ♀1羽、オオジュリンなど。4月8日、カワウ、アオサギ。コサギ、冠羽目立つ。キジの声、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、ツバメ、アリスイ、ジョウビタキ♀、アカハラ、シロハラ、オオジュリン、ベニマシコ♀1羽、シメ。ウグイス・シジュウカラ・ホオジロ・アオジがさえずっていた。遠くからガビチョウのさえずりなど。

4月17日、カケス4羽、シメ、アオジなどまだ冬鳥中心。オオタカ若鳥がカラスに追われていた。ようやくコムクドリ4羽(♂2羽、性別不明2羽)が出てくれた。4月20日、アカハラ、シロハラ、アオジ。4月21日、カケス1羽、ガビチョウ2羽、はるか彼方からサンショウクイの声、モズ♂が♀に求愛給餌していた(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区馬込 ◇4月1日、綾瀬川沿いでクロジ1羽、カシラダカ、キジ♂1羽、オナガ12羽など(本多己秀)。

さいたま市岩槻区南平野 ◇4月1日、元荒川沿いでヒドリガモ12羽、ミヤマガラス約200羽など(本多己秀)。

さいたま市岩槻区太田1丁目 ◇4月8日、



5月9日、川越市伊佐沼と冒険の森の間の橋のたもとにサカツラガン1羽がアヒル2羽の脇にいました。5月号9ページ、野鳥記録委員会の記事にあった「籠抜け」でしょうか。(茂木幸蔵)

サカツラガンを原種としたガチョウもいます。それではないかと思われます。

(野鳥記録委員会)

畑仕事の中、ふと見上げるとサシバが舞っていた。4月25日の畑仕事中には、上空を通過するサンショウクイの声、姿は見え(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区野孫 ◇4月9日、ケリ3羽(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区高曽根 ◇4月15日、耕作地で夏羽になったタヒバリ約30羽の群れ(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区大谷 ◇4月15日、車運転中、飛んで来てアシにとまった小鳥を確認したら、ホオアカだった(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区綾瀬川北岸 ◇4月19日午前11時頃、カワセミ1羽、キジ♂1羽、コガモ4羽、コサギ2羽、セッカなど。メジロがしきりにさえずった(本多己秀)。

さいたま市岩槻区野孫 ◇4月23日、ケリ2羽、カメラマン2人。4月26日、ケリ2羽、カメラマン4人。これから繁殖という時に非常にまずい(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区上野田 ◇3月30日、車の運転中に、耕作地の小さな流れに大きめのシギを発見。早めのチュウシャクシギかと思い、車を泊めて確認したら、ダイシャクシギだった。こんな所で1羽で何をしているのだろう(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区宮後 ◇3月30日、ツバメ2羽(鈴木紀雄)。

さいたま市緑区大門 ◇4月23日、遊水池でイソシギ2羽、コチドリ3羽(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇3月31日、B区で、コチドリ6羽とともに、ムナグロ1羽。今季初認(海老原美夫)。

さいたま市見沼区深作 ◇4月1日、オオジュリン多数。ハシビロガモ、オカヨシガモ、コガモ、カルガモなど。4月14日午前9時過ぎ、深作川遊水池でダイサギ1羽、目の先が実に美しい空色をしていた。アオサギ2羽、コガモ、カイツブリ、オオジュリンなど。4月16日朝、コサギ1羽、飾り羽が見事。チュウサギ2羽、今季初認。タシギ1羽、オオジュリンなど。4月21日午前10時頃、バン若鳥1羽、セッカ、ツバメ、カイツブリなど(本多己秀)。

さいたま市見沼区片柳 ◇4月11日、仕事の帰途、車の前方20m位をオオタカ成鳥1羽、横切って行く。すぐに車を止めて行方を確認。大きな農家の屋敷林に飛び込んで行った(藤原寛治)。

さいたま市見沼区大和田1丁目 ◇4月11日夕刻、大宮商業高校の駐車場で正面を向いた鳥のシルエット。カラスかと思ったら、横向きのシルエットはキジ。ダッシュで植込みに入った(鈴木紀雄)。

幸手市外国府間 ◇3月22日、ツバメ2羽、今季初認(鈴木紀雄)。

渡良瀬遊水地 ◇3月22日、遠くでホバリングするケアシノスリ1羽。その他ハイロチュウヒ♀2羽♀3羽、チュウヒ数羽、その内1羽は大陸型♂。コチョウゲンボウ、ノスリ、ミサゴ、ツミ、トビなど(鈴木紀雄)。

春日部区西親野井 北緯36.0388度 東経139.8070度 ◇3月26日、ツバメ初認。大きくてがっしりした雄のツバメだった(長嶋宏之)。

本庄市ふるさとフラワーパーク ◇3月27日正午頃、ツバメ1羽、フルカラーのスマレの上を軽やかに舞う。今季初認。ふるさとフラワーパークの桜の小枝でコジュケイ成鳥2羽幼鳥5羽。「チョットコイ」の合唱練習中(町田好一郎)。

羽生市羽生水郷公園 ◇3月27日 渡り前で集合しているのか、シメ6羽が次々とアシ原から飛び出した。シベリアジュリンだろうか? 下嘴が白く、体全体の印象が白っぽい個体があった。ヒバリが2羽、青い空をバックにさえぎり飛翔。ノスリがゆっくり輪を描いた。その他、ヨシガモ、オオバン、ジョウビタキ、ツバメ、オオジュリンなど(長嶋宏之)。

蓮田市黒浜 ◇3月31日、上沼周辺でツバメ4羽、コチドリ1羽、オオジシギ1羽、タシギ6羽、シロハラ、カワセミ♀、オオジュリン、アオジ、カイツブリ、バン、オオバン、マガモ♀、コガモなど。東埼玉病院でエナガ2羽、ビンズイ8羽、アカゲラ♀、アカハラなど(鈴木紀雄)。◇3月31日午前8時~9時30分、東埼玉病院でアカ

ゲラ♀1羽、ドラミング。ルリビタキ♀1羽など。4月1日午前7時30分~9時、同所でアカゲラ1羽、コゲラ3羽、ハイタカ1羽など。4月7日、同所でルリビタキ♀1羽、アオゲラの声、コジュケイ4~5羽、ツミ1羽、ツバメ、モズ、シメなど。4月14日午前8時過ぎ、ゴルフ練習場近くの田んぼでミヤマガラス22羽など(本多己秀)。

蓮田市蓮田 ◇4月6日、今年初めてメジロのさえぎりを聞く(本多己秀)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇4月6日、イチョウの梢に止まっていたシメ2羽、ツグミ5羽、キジバト1羽が一斉に飛び上がる。オオタカがゆっくりソアリングしていた。4月13日、16~20羽のヒヨドリの一群が北に向かった。北帰行のようだ。スズメの群れがバラけて1~2羽になった。つがい形成の時期のようだ。4月22日、芝生でツグミ7羽、ムクドリ12羽、キジバト2羽がまとまって採餌していた。互いの巣の距離約400mで、ハシボソガラスが3ヶ所で抱卵している。ハシボソガラスの巣は見当たらない(長嶋宏之)。

蓮田市江ヶ崎 ◇4月19日午前8時過ぎ、田んぼでイカルチドリ1羽、タシギ1羽、ツグミ、ツバメなど(本多己秀)。

蓮田市馬込 ◇4月25日午前9時、ダイサギ、目の先が美しい空色。チュウサギ、コサギ(本多己秀)。

上尾市瓦葺 ◇4月13日、県道大宮・栗橋線脇の遊水池の水面にアシに隠れるように休むシマアジ♀1羽(鈴木紀雄)。

加須市中種足 ◇4月22日、耕作地でムナグロ1羽。用水路でクサシギ1羽(鈴木紀雄)。

戸田市彩湖 ◇4月25日、ヒバリ、セッカ、ウグイス、キジ、ツバメ、アオサギ、オオバン、ツグミ、カワウなど(陶山和良)。

表紙の写真

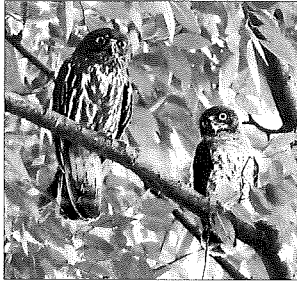
ハト目ハト科コバシヒメアオバト

2010年4月10日北マリアナ諸島サイパン島で撮影。2~3ページの「ロタ島・サイパン島の鳥たち」をご覧ください。

海老原美夫(さいたま市)



行事案内



アオバズク (鶴飼喜雄)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費: 就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。持ち物: 筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻: 特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止。小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日: 7月4日(日)

集合: 午前8時15分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時35分、思い出橋駐車場。

交通: 東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36→栗橋 7:56→板倉東洋大前 8:08 着。JR 宇都宮線浦和 6:55→大宮 7:03→栗橋 7:38 着で東武日光線乗り換え。

解散: 午前11時30分ごろ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担当: 橋口、内田、玉井、田邊、中里、四分一、植平、茂木、佐藤、進士、山田(東)、佐野、野口、

見どころ: 思い出橋からアシ原浄化ゾーンを探鳥します。この時期はオオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ヨシゴイ、ササゴイの7種が中心です。アシの先端でさえずる合唱や、その上を時折横にゆっくり飛ぶ鳥影に注目。雨具と防暑対策はお忘れなく。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日: 7月11日(日)

集合: 午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

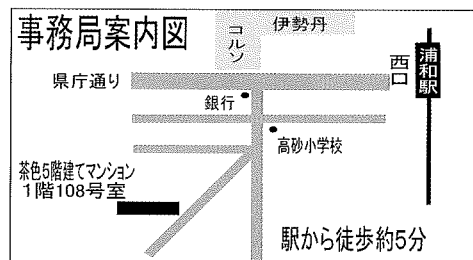
交通: 秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当: 後藤、中里、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼、岡田

見どころ: 今日は押切り橋の方に向かってみましょう。オオヨシキリ、セッカ、カイツブリ、カルガモなどの繁殖状況などを観察してみたいと思います。照れば暑い大麻生ですが、梅雨の最中。雨具の用意をお忘れなく。

『しらこぼと』袋づめの会

とき: 7月17日(土) 午後3時~4時ごろ
会場: 支部事務局 108 号室



さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日: 7月18日(日)

集合: 午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援: さいたま市立浦和博物館

担当: 楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小管、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ: 長年の工事が終わった芝川右岸に遊歩道を造る工事が始まりました。この小

道が鳥の生息にどんな影響があるか、心配です。そんな思いとは別に、夏休みが近い休日の見沼田んぼでは、カッコウとオオヨシキリの鳴く声が聞こえてきます。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月18日(日)

集合：午前9時45分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:25発バスで終点下車。

費用：入園料一般400円(子供80円)、65歳以上200円(年齢を証明できるもの必要)。

担当：中村(豊)、佐久間、内藤、岡安、藤掛、大坂、青山、山田(義)、高橋(優)、林、藤澤、宇野澤、杉原

見どころ：鳥の少ない時季ですが、キビタキやホトトギスの声が聞こえてくるかもしれません。緑陰の道を歩きながら草花や虫も見ましょう。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月25日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:39発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、石光、山田(義)、山口、星、水谷、間正

見どころ：今年生まれた鳥たちもだいぶ大きくなる頃です。デビューしたばかりの鳥たちを探して見ましょう。少し大きくなったカルガモやカイツブリの子供たちに、会えたらいいね。

伊豆諸島初記録 シロハラホオジロとの遭遇

榎本秀和(鴻巣市)

三宅島アカコッコ館の本年5月9日付けブログに、「伊豆諸島初記録」としてシロハラホオジロの写真がアップされている。

この日は、当支部の三宅島探鳥会の真っ最中であり、私たち一行もめでたくこの珍客に遭遇することができた。

私はこれまで、日本海側の島嶼などでシロハラホオジロを何回か見ているが、今回の個体の性別・年齢の判断にはちょっと頭をひねったところである。同行の宇野澤晃氏が画像を提供してくれた(右写真)ので、その画像と自分の記憶とを重ね合わせながら、性別・年齢を検討してみる。



まず、『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂版の執筆者の一人であるT氏に意見を求めたところ、「頭尖線や眉斑がはっきり白いので。耳羽が茶褐色を呈するのは換羽中のためと思われ、年齢は不明」との返事をいただいた。

私の記憶でも頭部の白筋は確かに真っ白だった。しかし黒筋の部分は、後頭部では真っ黒だったが、前面では茶褐色を帯びていた。ここのところが実に悩ましいのであるが、宇野澤氏の画像では、黒筋は顔の前面まで、歌舞伎役者の隈取りのようにはっきり黒く写っている。白い眉斑も、目先まで全部白い。

体全体を見れば、体色の茶褐色も濃く、腰から上尾筒にかけての赤褐色も目立ち、みであることを思わせる。

実は、私はついこの5月1日～2日に、鹿児島県の離島で♀複数羽のシロハラホオジロを観察してきたばかりだが、いずれも完全な成鳥夏羽であった。そうすると、時季的にみて、換羽の完了していない成鳥がまだ残っているとは考えにくく、三宅島に現れたこの個体は若鳥(第1回夏羽)ということになるのではないかと想像する次第である。喉がまだ黒くなかったのも、そういう理由からであろう。

何はともあれ、シロハラホオジロを目にしたという事実は、三宅島探鳥会としては1999年のマダラチュウヒ以来の快挙と言えるのではないかと。



行事報告

1月9日(土) 松伏町 まつぶし記念公園

参加: 35名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ ノスリ チョウゲンボウ バン オオバン イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) (番外: ドバト) 工事中の公園に池ができてから10年になるが、例年に比べ来ているカモの種類も数も少ない。ミコアイサの雌の姿がせめてもの慰めか。公園を出て屋敷林を巡ると冬の鳥が歓迎してくれてホッとす。探鳥会の間、シラコバトは出てくれなかったが、鳥合わせ後近くの観察ポイントに出かける人が多かった。

(橋口長和)

1月24日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 44名 天気: 晴

カイツブリ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ノスリ クイナ バン オオバン キジバト カワセミ アリスイ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 先ずオオジュリンがアシ原の上を飛び交い、しばらく行くとホオジロが地面に、カシラダカは木に、そしてアオジは枯れ草の上に、これでホオジロ4種が揃う。沼に着くとカワセミが待っていてくれ、いつもより少ないカモに代わってクイナを観察する。アシ原の中の木にシメ。雑木林の上空に成鳥オオタカが出てくれ、しばしの飛翔を楽しむ。ここでのお目当てルリビタキは先頭の数人だけが一瞬の観察に終わる。ホタルの里で一休み後2ヶ所でベニマシコを観察。

全員が見られる。アリスイを探しながら鳥あわせ場所の環境学習館へ。いつもの黒浜沼だったが、事故なく終わることができ、参加者の方々に感謝。

(田中幸男)

1月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 47名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ツミ イカルチドリ イソシギ タシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) (番外: ドバト) 前回11月に続き今回もアカハラが見られた。これまで十数年で1~2回しか記録がない鳥なのに。タシギも久しぶり。タシギの場合、いるのに気がつかないだけかもしれないが。一方、ヒメアマツバメは出現頻度が高くなっている。1年を通じて元気に飛び回る姿は、入間川名物になりつつある?

(長谷部謙二)

1月28日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 35名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ミコアイサ トビ ノスリ チョウゲンボウ キジバン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) (番外: ドバト) 心配された天気も時折日差しがこぼれるまぜまぜの探鳥会日和となった。スタートすると早速カワセミが出迎えてくれた。相変わらずの人気だ。女性陣はスコープに釘付けだった。池に出るとヨシガモを間近に見ることができた。ここ数年、毎年10羽程度の群れが来るようになった。その華麗な装いを披露してくれた。アシ原では早々とホオジロのさえずりを聞くことができた。

上空ではノスリが悠々と舞ってくれた。最後はキジが姿を見せてくれた。(中里裕一)

2月6日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加: 31名 天気: 晴

カイツブリ カワウ トビ ノスリ イカルチドリ クサシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 大変寒さが厳しく、地面にはうつつらと雪が残っていた。コース全体のカラ類が多く、いくつかの混群に出会い、コゲラやエナガ等の観察がよく出来た。都幾川沿いでは、トビ、ノスリが出現。河川にはイカルチドリ、クサシギも観察できた。

(後藤康夫)

2月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 52名 天気: 快晴

カワウ オオタカ チョウゲンボウ バン タシギ キジバト アリスイ コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外: ガビチョウ) 風が強いため、出現鳥の数が少なかったが、全員が近くからタシギをじっくり観察できた。また、終了直前に東屋近くでアリスイを多くの人が観察できた。皆さんに楽しんで頂けたのではないかと思う。

(吉原俊雄)

2月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 46名 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ ノスリ チョウゲンボウ バン オオバン セグロカモメ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外: ドバト) とにかく「吹き荒れ

た」という表現が当てはまる。風が強く、寒い日だった。いつもとは逆にコースを歩き、早い時間に芝川の土手を歩いたときなど、普通に立ってられないほど。それでも、心配していた鳥たちは、風をよけて耐えながら、元気な姿を見せてくれた。いつもはなかなか姿を見せてくれないシロハラも、低木の根元付近で餌を探す様子がよく見られた。参加された皆さん、本当にお疲れ様でした。

(伊藤芳晴)

2月7日(日) 狭山市 智光山公園

参加: 33名 天気: 快晴

カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ クイナ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番外: ドバト) 台風並みの強風が吹き荒れ、池は浚渫工事中と悪条件が重なり前途が心配されたが、彩り鮮やかなルリビタキ、カワセミ、キセキレイ等をしっかり観察出来て、まずまずの成果だった。個体数が減っているのは残念だが、智光山公園の“鳥相”はまだ十分魅力的だ。(石光 章)

2月11日(木、休) さいたま市 大宮市民の森

参加: 41名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ キジ クイナ バン イソシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ カケス オナガ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) (番外: ドバト) 今にも雨が降りそうな天気。公園内は鳥の姿が見えず。公園の外に出ても、いるはずの鳥達がいな。ところが、芝川沿いを歩くと、いきなりクイナ。せわしなく動き回るので皆さんも見るのが大変そう。しかし、ほぼ参加者全員が見ることができた。葦の中からキジがひょっこり登場。こ

ここでは珍しいオカヨシガモが5～6羽出現。カワセミが葦にとまり参加者全員がじっくり観察。天気も怪しくなり、またゆっくり観察していたのでコース変更。これが幸いしミヤマガラスと遭遇。嘴の特徴なども観察できた。終わってみると42種。雨にも降られず、充実した探鳥会であった。

(青木正俊)

2月12日(金) 戸田市 彩湖

参加:12名 天気:曇時々雨・雪

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ホオジロガモ ノスリ バン オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト アリスイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種)(番外:ドバト)雨模様の中、出発。西岸を行くことにした。池でバン、オオバンを見て湖岸へ。管理橋の向こうにホオジロガモ♀が3羽。橋を渡って北に向かう。人が少ないせいかツグミ科の鳥が多い。中間でノスリ。小鳥たちの声はあまり聞こえない。北のフロートの上にユリカモメ、セグロカモメ。機場わきの流入堤下部にヨシガモ。鉄橋下の焼け跡でアリスイが出たが、2名だけが見て終了となった。

(倉林宗太郎)

2月13日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

雪のため中止。

(中村豊己)

2月14日(日) 群馬県 小根山森林公園

参加:42名 天気:晴

トビ ハイタカ ノスリ キジバト アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ カヤクグリ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ クロジ アトリ カワラヒワ ベニマシコ イカル シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(36種)(番外:ガビチョウ)積雪の中、小根山森林公園を目指す。途中、ルリビタキ♂が登場! かわいい姿を全員で堪能

する。懸念していた坂も全員がクリア。公園内でアトリとミヤマホオジロがお出迎え。雪の上のミヤマホオジロは、黒と黄がはっきりしてとても綺麗。帰り道、横川駅の近くで全身チョコレート色のカヤクグリが出たのは、鳥の女神からのバレンタインの贈物でしょうか。

(入山 博)

2月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加:29名 天気:晴

カワウ アオサギ カルガモ トビ オオタカ ハイタカ ノスリ チョウゲンボウ コジユケイ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(35種)(番外:ドバト)前日の雪で足元が心配されたが、陽も射して路面の雪もすっかり溶けて心地よく出発できた。土手の上からはベニマシコの愛らしい姿が見られた。皆大喜びだ。森の入り口ではクヌギの大木の天辺にノスリが止まっていた。タカにしては可愛い顔をしている。結構な人気者だ。上空にはハイタカ、オオタカと立て続けに出てきた。その舞姿は何度見てもあきることがない。野鳥の森の池ではルリビタキが最後を締めくくってくれた。

(中里裕一)

2月14日(日) 所沢市 狭山湖

参加:17名 天気:晴

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ コガモ オカヨシガモ ホシハジロ ホオジロガモ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ シロハラ ツグミ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ シメ スズメ オナガ ハシブトガラス(30種)(番外:ガビチョウ、ソウシチョウ、ドバト)ルリビタキやシロハラ等、冬鳥は元気に活動していたが個体数の少ないのが気になる。カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリの群れの中には早くも夏羽の個体が見られた。シメも群れ始めており、渡りの準備に入ったようだ。鳥たちの季節変動が早まっているのだろうか?

(石光 章)



●今年も「ヒナを拾わないで！」

毎年この季節の事務局には「ヒナを保護したけど、どうしたら良いか」との問い合わせ電話が相次ぎます。

答える内容はいつも同じです。「野鳥のヒナが地上にいても、拾わないでください。落ちていてではなくて、降りているのです。迷子になっているのではなく、親鳥が近くにおいて、人がいなくなるのを待っているのです。ヒナをそのままにして、できるだけ早くその場から離れてください。ネコやカラス、車などが心配なら、ヒナを近くの茂みなどに移動することはできます。親鳥はヒナの声で居場所がわかりますから。

人が鳥のヒナを、自然の世界で生きていけるように育てることはできません。何とか元気に育つと祈りながら、そのままにしておくほかないのです。」

会員の皆様が相談を受けた時にも、そのようにお答えください。財団本部のホームページ「普及教育」から「ヒナを拾わないでキャンペーン」で、詳しく説明しています。

●他支部の名称変更と支部長交代

5月24日から、群馬県支部が「日本野鳥の会群馬」に名称変更しました。

同日付け奥多摩支部からのメールによれば、支部長：市川秀夫氏、事務局：鈴木君子氏に変更になりました。

●会員の普及活動

5月10日(月)本庄市立中央小学校4年生3クラス105名対象の総合的な学習の時間に、体育館で野鳥観察の基本の話、校庭で双眼鏡

や望遠鏡の使い方を町田好一郎・倉崎哲郎・鶴飼喜雄が指導しました。

●会員数は

6月1日現在 2,072 人です。

活動と予定

5月8日(土) 6月号校正(海老原美夫、大坂幸男・長嶋宏之・山田義郎)。

5月16日(日) 役員会(司会：石川敏男、各部の報告・総会プログラム・新規約案・決算予算案・事業報告計画案・新年度役員案・その他)。

5月17日(月) 「支部報だけの会員」に向け6月号を発送(倉林宗太郎)。

●7月の予定

7月3日(土) 編集部・普及部・研究部会。

7月10日(土) 8月号校正(午後4時から)。

7月17日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

7月18日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

先日、東京バードフェスティバルでトークショー「江戸屋猫八&松田道生」を楽しんできた。やはり猫八さんの指笛はすごい！自分もまねて小指をカギ型に曲げてみたが、指の腹側がぴったりくっついてカギにならない。小指だけのダイエット法が必要だ。(部)

「だけ？」なんていう揚げ足取りはやめて、まじめな話をしよう。4ページにある通り4月29日は5羽しかいなかったムナグロを、As区で5月3日100羽ほど、4日には200羽ほど観察した。例年より飛来が遅かったようだ。シロハラクイナの保護でお世話になった農家Tさんの話では、今年は苗の生長が悪く、田植えも大分遅くなったという。(海)

しらこぼと 2010年7月号(第315号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社